



## 大野市教育委員会たより

令和元年11月11日発行 第35号

発行 大野市教育委員会教育総務課  
〒912-0086 大野市天神町 1-1  
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110  
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思っております。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：11月5日（火）午後7時～9時5分

場所：小山小学校体育館

対象者：小山地区住民（出席者数16人）

次第：教育長挨拶、1部 説明「大野市の教育について」、2部 意見交換「大野市の教育環境について」

※以下は、「2部 意見交換」で地区住民の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※地区住民からの意見を◎、教育委員会の意見を■で表示しています。

- ◎以前の学校再編計画は、なぜそんなに急いだか。丁寧さがなく、計画の進め方が分からなかった。
  - ⇒■平成29年1月に策定した学校再編計画は、平成25年から多くの方々の意見を聞くことから着手している。平成27年2月に計画素案を作成し、段階的に再編する案としていたが、子どもの数が将来的にさらに減っていく想定と、段階的に再編することで学校を何回も変わったり、学用品を買い換えたりなど、保護者や児童生徒に負担をかけてしまうと考えた。そのため、中学校1校、小学校2校と段階を踏まずに計画したことで、多くの方が再編を急いだと感じられたと考えている。
  - ⇒◎急いだ理由に、学校の新築に係る補助金を受けられる期限などは関係なかったのか。
  - ⇒■関係ない。今後も学校を新築する場合、国の補助制度はある。
  
- ◎中学校1校になると、小山地区の地域性がなくなる。市総体などの運営に影響があるのではないかと考えている。
  - ⇒■校区が1つになることによる地域の結びつきへの影響は難しい問題であると思う。学校は、誰のためにあるのかを考えないといけない。子どものためではあるが、地域の中心であるのも間違いない。どちらを選ぶかとなった場合、子どもの幸せを優先したいと考えている。
  - ⇒◎せめて、中学校は2校だと思ふ。
  - ⇒■中学校の現状は、美術や技術、家庭などの専門教科の教職員がすべての中学校に配置できなかつたり、部活の選択ができなかつたりしている。
  
- ◎子どもの数が少ないと何が悪いのか。多いと何が良いのか。先般、市文化祭があり、各小学校の作品が出品されていた。小山小の作品は、他の学校と比べて素晴らしかった。大きい学校の子ども全てが絵が上手なのか、走るのが速いのか。今年の小学校の陸上競技では、小山小の子どもが1番だった。人数だけで物事を片付けようとしていないで、小さい学校だから出来ることもある。大きい学校と合同でやれば出来ることもある。
  - ⇒■日本は島国であり、へき地・複式の学校がたくさんある。そのような学校で、個人競技を集中して頑張っている子どもはたくさんいる。大規模校、小規模校それぞれに課題はある。今は、家に居ても国語や算数などの勉強が出来る時代であるが、学校はなくならないと思う。学校では、勉強以外に集団で生活しながら、社会性を学んでいる。極端に子どもの数が少ないと、この社会性を学ぶことが出来ないと考える。これからの時代を生きていくために、社会性は必要なことだと考えている。
  - ⇒◎子どもが少ないと集団的な行動は出来ないと思う。夏休みにバイトに来ていた高校生が「早く夏休みが終わって欲しい」と言った。それは早く、学校で友だちに会いたいためであった。家の隣り近所に友だちがいなかったためであり、それを考えると学校はある程度の人数が欲しいと考えるが、小規模校の良さもあり、再編に対する考えが行ったり来たりしている。

- ◎今は、昔なかったような思いもよらない事件が起きている。その要因が教育にあると感じている。一番考えていかなければならないのは、心の問題である。子どもたちがどうやって育っていくのかを考えたら、果たして数字だけで学校を小さくしたり、大きくしたりしていいのか。どうしたらいいかの結論はない。中学校1校、小学校2校の再編の時、教育委員会はスクールバスを出すと行ったが子どもを荷物みたいに運ぶ感じで、乱暴だと思った。再編による細かい問題は分からないが、子どもの心を育てて欲しい。
- ⇒■この意見交換会は、大野の教育環境をどうしたらいいかについて意見を聞くために行っている。その中の一つに再編がある。子どもたちのために原点に戻って考えていくことは必要だと思っている。
- ◎大野の地形から考えて、中学校2校、小学校4校が理想と思っている。人数的なことを考えると厳しいかと思っている。1学年100人ぐらい、もしくは1学年最低2クラスあれば良いと思っている。今後、子どもが減っても、この規模であれば20年ぐらいは学校としてやっていけると思う。
- ◎複式学級の子どもと、それ以外の子どもの学力テストの分析結果はあるのか。複式学級である小山小の子どもは先生と接する時間が大きい学校より多い。なので、一つも劣っているとは思っていない。小山小は優秀なのに、なぜこの地区に住んでいて、有終南小へ通学している子どもがいるのか。校区割はないのか。
- ⇒■校区は決まっている。
- ⇒◎小山小の校区の領域を広げてもらえれば、小山小の人数を確保できるのではないか。校区を変更することは難しいのか。
- ⇒■校区は昔からのつながりがあり、急に校区を変更することは難しい。校区を変更したから、有終南小の子どもが多いという訳ではなく、時代の変化で有終南小校区に人が多く住むようになったからである。
- ⇒◎時代の変化で学校の人数がいびつになっているのを容認しているのか。時代の変化に合わせて校区を変更をすればいいのではないか。
- ⇒◎新庄区や鉤掛区なども以前は小山小の校区だった。いつごろから校区が変わったのか。
- ⇒◎昭和40年代だと思う。当時、校区変更について小山地区で説明をした時、地区住民は誰も反対しなかったと聞いている。これだけ人口が減り、少子化になってきている中、学校再編は避けて通れないと思っている。地区にとっては、小学校・公民館・農協の支店が地域コミュニティの拠点である。これが1つ欠け、2つ欠けという状況が見えてきた時、どのように受け入れ、どのように対応していくかが課題である。
- ⇒◎教育だけを視野に入れては駄目である。コミュニティ全体を考えて動かないといけない。市の他の部署と連携をとってもらいたい。有終南小の子どもの数は、多すぎて問題であるということはないのか。
- ⇒■有終南小でも、教室は空いてきている。
- ⇒◎義務教育なので、文部科学省のマニュアルから逸脱しては駄目なのか。大野らしい教育をやったらどうか。
- ⇒■国の基準をもとに、大野の強みを出しながら教育をしていくことは必要だと思う。
- ⇒■昭和40年代の有終南小は1学年200人（1クラス40人の5クラス）がいた。現在の市の出生数は年間200人である。1学年100人の小学校にしようすれば、必然的に2校となる。小学校4校とすれば1学年50人になる。今後も子どもは減っていく状況である。
- ⇒◎文部科学省から統廃合の指針は出ているのか。
- ⇒■国が示している標準学級数は、小中学校とも12～18学級である。小学校では1学年2～3学級、中学校では1学年4～6学級を標準としている。
- ◎家から有終南小まで3.9キロである。再編した場合、学校から4キロ以内でもスクールバスを出して欲しい。また、学校が終わった後、子どもを預かる場所を確保して欲しい。子どもの両親は共働きで、60歳を過ぎた祖父母も働きに出る時代である。児童クラブや放課後子ども教室もいっぱい状況と聞いている。
- ⇒■児童クラブの所管は、福祉子ども課であり、地域コミュニティは総務課や生涯学習課が関係する。学校再編は教育委員会だけの話ではないため、関係課と連携しながら、いろいろな課題を考えていきたい。
- ⇒■小学校から家まで4キロ以上の場合はスクールバスで対応するという事は、再編計画素案の時に示している。スクールバスについては、意見交換会を実施したどの場所でも不安なことであるため、十分に考えていかなければと思っている。

◎学校再編ではいろいろなことが課題になると思う。ある程度、変更ありきの案を出して欲しい。

◎いじめや不登校があった場合、中学校1校では逃げ場がなくなる。

義務教育が終わった高校生に小中学校に対する意見（どのような学校だったかなど）を求めてみてはどうか。親として、小さい小学校から大きい中学校へ入学する子どもが心配であるが、カウンセリングなどのフォローがあれば心配なくて済む。

中学校1校の再編は、不安要素を大きくしている。長い時間をかけて、たくさんの意見を聞いて欲しい。大きいクラスになると、英語の授業などで先生の話聞いていない子どももいると思う。少人数クラスに編成するか、先生をもう1人配置し、全員が授業に集中できる環境づくりをして欲しい。

⇒■教職員が子ども同士をどのように学習させるかの技術を上げていかなければならないと思っている。今の学校では、車座形式（子どもが向かい合って輪になる）で意見を出し合う授業も行っている。お互いが相手の意見を聞き、それに対して自分の意見を言うなど、子ども同士の学び合いを行っている。

◎小山小の放課後子ども教室では、上の学年が1、2年生の面倒を見ていて仲が良い。再編しても、このような小規模校の良さを残して欲しい。

⇒■教育委員会でも考えなければならないことが、地域の良さを地域の方々は、どのようにすれば残していけると思うか。鉄踊りや地域の運動会をどのように残していくかを教育委員会だけで考えるのではなく、地域住民や市関係部署などと一緒に考えていかなければならない。

⇒◎再編後の放課後子ども教室の運営方法なども含めた素案を示してもらえれば、保護者や地域住民の安定材料になると思う。

⇒■例えば、再編した場合、放課後子ども教室を小山地区で継続的に運営する場合、地域の方は協力してもらえるかなど、地域の方も一緒になって考えていただければ、小山小の良さを残していけると思う。

⇒◎地区の体育大会があるとき、中学校の行事や部活を休みにしてもらい、生徒が参加してくれている。小学校が再編された場合、そのようなことも継続して欲しい。



◎中学校の部活が少なく、やりたい部活がない生徒が多いと思う。中学校が2校に再編された場合、2校で1つの部活を作るなどの検討もして欲しい。

⇒■他の中学校の部活に入って大会に出たり、2つの中学校が合同チームを作って大会に出たりすることは現在も行っているが、練習がなかなか一緒に出来ない。

⇒◎部活に規制はないのか。子どもの要望に応じていろいろな部活を作っていたら、子どもも先生もいくら人数がいても足りないと思う。

⇒■陽明中では、校外のクラブチームで一生懸命頑張っていれば、学校の部活に所属しなくても良くなっている。再編しても、みんなを満足させる部活は出来ないと考える。地域のクラブに頼っていくことになっていくと考えている。

⇒◎どうしても部活をしないといけないのであれば、学校では勝敗にこだわらない同好会みたいな部活とし、勝敗にこだわる場合は校外のクラブチームに所属してもらうなどにしてはどうか。また、季節によって、1人が野球部とバドミントン部などいくつも所属できるようにするなど学校の部活の運営を考えていくべきと思う。

⇒■部活のあり方は間違いなく、これから変わっていくと思う。

◎中学校は、部活のことが原因で再編を検討しているが、現在、校外のクラブチームの所属などで対応しているのであれば、部活を絡めない再編の考えが出てきてもいいのではないかな。

⇒■部活以外にも、小規模の中学校では主要5教科の教職員は配置してもらえが、美術や技術、家庭、体育などの教科に対して専門の教職員が配置されないことも課題となっている。

◎出生数が年間200人ぐらいと聞き、再編せざるを得ないと感じた。子どもが小山小に入学するとき、人数が少ないことに対する不安があった。周りからは「目が届くからいいね」と言われたが目が行き届きすぎる不安があった。入学後、6年生の子が下級生の子に対して絵本を読んであげていたのを見て、小規模校も良いと思った。大きい学校では見られない光景だと思った。しかし、少ない人数の学級で担任の先生と相性が合えばいいが、合わなかったら辛い思いをすると感じている。1学年に少人数の学級が複数あると良いと思う。

◎教育でグローバル化をすればするほど、ローカルが重要になってくる。小規模が重要になってくる。今は、個人が重要で才能や個性を伸ばす時代になっている。学級は少なすぎても駄目だが、目の届きやすい人数であることは必要だと思う。国の基準ではなく、現場の視線でその規模（基準）を作って欲しい。学校再編は、PTAの意見を最優先しなければならない。地域はサポートする立場に回らないといけないと思っている。

⇒■子どもを持つ保護者がどう思うかが重要だと考えている。大野に住む自分たちで大野の教育を創っていくしかないと思っている。

お仕事等でお忙しい中、ご出席いただきました各地区の区長様及び地区住民の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。

